

参加者募集

地域におけるリサーチ型芸術実践（美術）のモデルケースとして、島／沖縄にクローズアップした多角的なリサーチ展示を制作するプログラムです。受講生はリサーチ型講座を経て「島／暮らし」をテーマに、信仰・社会・歴史・交易・環境・移民（移住）・観光・労働などの切り口から、フィールドワーク／インベスティゲーションを行います。このリサーチを通じて集めた資料や素材を「投壺通信」（message in a bottle）の形でまとめ、お互いのリサーチの成果についてディスカッションを行い、成果展へと結実させます。

受講料：無料

参加条件：section1～3の全てに参加できる方。*section2の講座1・2は選択です。

対象：フィールドワーク・アートに興味のある方。一般、フリーランス、大学院生、など。

section1

オリエンテーション

日程：8月25日(金) 13:00-16:00

場所：沖縄県立芸術大学 当蔵キャンパス 一般教育棟 101 教室
903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町 1-4

section2

リサーチ型講座 日程：8月26日～30日

場所：沖縄県立芸術大学 当蔵キャンパス 一般教育棟 101 教室
*フィールドワークの日は現地集合・現地解散となります。

講座1 (9時～12時) テーマ：「0から1へ」

講師：儀間朝龍 (rubodan 代表、ダンボールアーティスト)

講座2 (14時～17時) テーマ：「語り継ぎの物語を描いてみる」

講師：瀬尾夏美 (アーティスト、フィールドワーカー)

section3

成果展 「message in a bottle 島と／詠む 2nd」

会期 (予定)：11月29日(水)～12月3日(日) *プレゼンテーション：12月2日(土)

場所 (予定)：沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館

応募締め切り 2023年7月31日(月)

募集人数：講座1 …10名程度、講座2 …5名程度

参加申し込みフォーム

定員に達し次第、募集は終了いたします。



QRコードよりお申し込みください。
QRコードが読み込めない場合は、
問い合わせ先へご連絡ください。

講座1 テーマ：「0 から 1 へ」

募集人数：10 名程

内容：一見、捨てられてしまうようなものに価値を見出すことを考えていきます。

講師：儀間朝龍（rubodan 代表、ダンボールアーティスト）

- ・日程：2023 年 8 月 26 日（土）～30 日（水）9：00～12：00
8 月 26 日（土）「rubodan」の説明、フィールドワーク（段ボール回収）
8 月 27 日（日）モノ作りの発想について、作品鑑賞
8 月 28 日（月）フィールドワーク（市場見学、製紙工場見学）
8 月 29 日（火）フィールドワーク（社会福祉施設見学）
8 月 30 日（水）制作、ディスカッション

- ・場所：沖縄県立芸術大学 当蔵キャンパス 一般教育棟 101 教室 *フィールドワークの日は現地集合・現地解散となります。



儀間朝龍（ぎま・ともたつ）

rubodan 代表、ダンボールアーティスト。ダンボールステーションナリーブランド rubodan（ルボダーン）を 2011 年より始める。現在は県内 4 ヶ所の作業所と共同で製造し、県内外で販売を行う。また、廃ダンボールを素材に「流通」と「消費」をコンセプトに POP COLLAGE を展開。主に儀間のコレクションするスニーカーやレコードなどのアメリカンカルチャーをモチーフに制作している。展覧会を中心に精力的に発表を行う一方、GUCCI や adidas、le coq、雑誌の表紙など企業とのコラボレーションも多数。

講座2 テーマ：「語り継ぎの物語を描いてみる」

募集人数：5 名程

内容：インタビューをもとに、「残したいこと」の形を考えていきます。

講師：瀬尾夏美（アーティスト、フィールドワーカー）

- ・日程：2023 年 8 月 26 日（土）～30 日（水）14：00～17：00
8 月 26 日（土）「二重のまち」を考える、聞き書きワークショップ
8 月 27 日（日）フィールドワーク（ひめゆりの塔、平和の礎見学）
8 月 28 日（月）映像作品「波のした、土のうえ」鑑賞、ディスカッション
8 月 29 日（火）制作、個別ディスカッション
8 月 30 日（水）展示、ディスカッション

- ・場所：沖縄県立芸術大学 当蔵キャンパス 一般教育棟 101 教室 *フィールドワークの日は現地集合・現地解散となります。



瀬尾夏美（せお・なつみ）

アーティスト、フィールドワーカー。1988 年、東京都足立区生まれ。土地の人びとの言葉と風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。2011 年、東日本大震災のボランティア活動を契機に、映像作家の小森はるかとのユニットで制作を開始。2012 年から 3 年間、岩手県陸前高田市で暮らしながら、対話の場づくりや作品制作を行なう。2015 年宮城県仙台市で、土地との協働を通じた記録活動をするコレクティブ「NOOK（のおく）」を立ち上げる。現在は、アーツカウンシル東京との協働プロジェクト「カロクリサイクル」にて、過去の災禍の記録のリリースとそれらを活用した表現を模索しながら、「語れなさ」をテーマに各地を旅し、物語を書いている。

成果展：「message in a bottle 島とノ詠む 2nd」

会期（予定）：2023 年 11 月 29 日（水）～12 月 3 日（日） *プレゼンテーション：12 月 2 日（土）

講座参加者は、8 月の講座を通じて集めた資料や素材をまとめ、1 週間の成果展（リサーチ展示）を行います。

- ・場所（予定）：沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館

リサーチ型プロジェクト

「message in a bottle - 島の暮らし、島からの発信」

監修：阪田清子（美術家、沖縄県立芸術大学准教授）